

○ 令和3年度中央卸売市場事業会計予算について

1 市場事業会計の現状について

札幌市中央卸売市場における取扱額は、少子高齢化や北海道内の人口減少による生鮮食料品消費の減少、消費者ニーズや流通経路の多様化による市場外流通の拡大、水産物の漁獲不振や天候不順による青果物の生産量減少など、市場を取り巻く環境の変化により減少しています。加えて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によるインバウンド需要の激減や飲食店の休業により、これらの需要に支えられていた高級魚介類等の販売不振が顕著になっています。

また、再整備を行った水産棟や青果棟は竣工から約13年が経過、それ以前に整備を行っている青果物定温倉庫や水産保冷配送センターなどは竣工後20年以上を経過しており、経年劣化による修繕費用の増加が見込まれるうえに、主要設備の更新時期も迫っていることから、今後も厳しい市場運営が続くものと予想されます。

2 令和3年度市場事業会計予算の概要

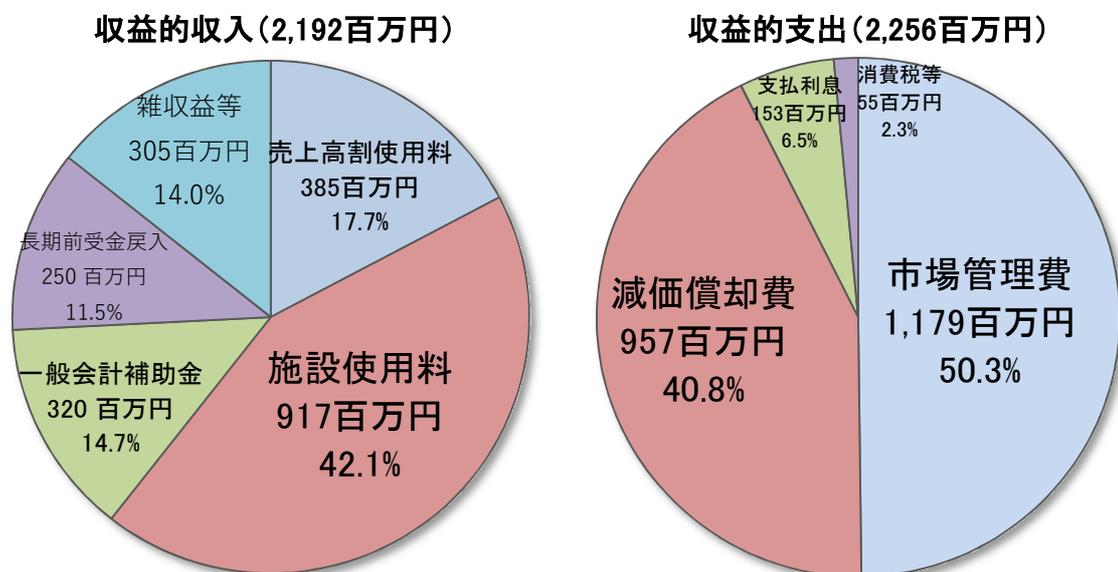
令和3年度市場事業会計予算の主なポイントは、次のとおりです。

(1) 市場整備

老朽化した水産棟ガス冷暖房機の室内機などの機器類の更新を行います。

(2) 収益的収入及び支出の状況

令和3年度予算における収益的収入及び支出の状況は、下の円グラフのとおりですが、企業債利息や減価償却費の減などにより、令和2年度予算と比べて114百万円赤字幅が縮小しています。



注: 円グラフの金額には、消費税及び地方消費税を含んでおります。